T.RowePrice

お客様向け資料
2022年7月

# ティー・ロウ・プライス 世界グロース株通信 特別編

# ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式ファンド 3周年記念　設定来パフォーマンスの振り返り

## 当ファンド設定3周年を迎えて

運用責任者　デイビッド・アイズワートより

日ごろよりティー・ロウ・プライス　世界厳選成長株式ファンドをご愛顧いただき感謝申し上げます。ティー・ロウ・プライス・ジャパンが日本向けの公募投信として初めて設定した当ファンドは3周年を迎えることが出来ました。

設定来、米中貿易摩擦、新型コロナウイルスのパンデミック、ロシア・ウクライナ危機など多くの変化を経験してきました。また、これからも同様の大規模な変化が訪れると私たち運用チームは考えています。当ファンドはそうした変化は常にあることを前提に、将来の変化の方向を見極め、想像力を働かせながら機動的な運用を行うことで、長期的な成長を捉えることを目指すファンドです。当レポートではこれまでの変化の中、どのように運用を行ってきたかを振り返っています。

引き続き変化の正しい側に立つ企業を発掘し、皆さまが長期的に保有して頂けるファンドとなることを目指して参ります。

## 当ファンドの歩み　ー 設定（2019年5月28日）からコロナショック前（2020年2月20日）ー

### 投資行動

**2019年5月～2019年9月**

米中貿易摩擦の動向により変動性が高まる局面が度々訪れる中、世界的な低成長・低金利環境が続くとの見通しのもと、長期的な成長トレンドを見極め、企業を選別。

**市場テーマ・トレンド**

米中貿易協議、英国のEU離脱、クラウドへのシフト、データセンター需要の高まり、電気自動車の普及　など

**2019年10月～2020年2月前半**

米中貿易協議の進展や英国EU離脱決定など、不透明要因が払拭されたことで上昇基調で推移。革新的企業が現れるとの期待から中国企業を高位に組み入れ。新型コロナウイルスの流行初期段階では持続成長・循環成長銘柄のバランスを取りながら、質の高い企業へ選別投資。

**市場テーマ・トレンド**

低金利・低成長環境、新型コロナウイルスの感染動向、中国でのイノベーション、半導体需要の加速、産業オートメーション　など

### 組入上位5銘柄

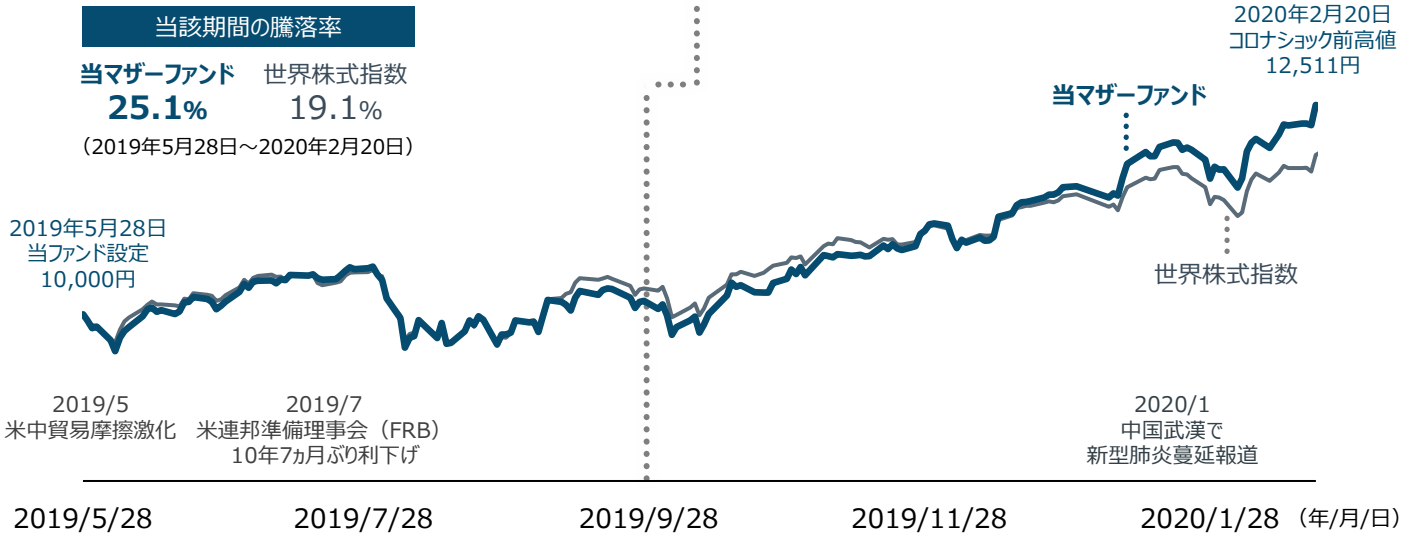
| 2019年6月末 | 2019年9月末 | 2019年10月末 | 2020年1月末 |
|---|---|---|---|
| 1. フェイスブック | 1. JPモルガン・チェース | 1. アルファベット | 1. アルファベット |
| 2. エシティ | 2. サムスン電子 | 2. サムスン電子 | 2. サムスン電子 |
| 3. センプラ・エナジー | 3. アルファベット | 3. ネットフリックス | 3. テンセント・ホールディングス |
| 4. テンセント・ホールディングス | 4. アリババ・グループ・ホールディング | 4. アリババ・グループ・ホールディング | 4. ロンドン証券取引所グループ |
| 5. アルファベット | 5. テンセント・ホールディングス | 5. JPモルガン・チェース | 5. フェイスブック |

※銘柄名は組入当時のものを表示しています。

**当該期間の騰落率**

| 当マザーファンド | 世界株式指数 |
|---|---|
| 25.1% | 19.1% |

（2019年5月28日～2020年2月20日）




期間：2019年5月28日（設定日）～2020年2月20日、2019年5月28日＝10,000として指数化　出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライス作成

- 当マザーファンドは信託報酬（年率1.683%（税込））控除後の値を使用しています。
- 世界株式指数はMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を円換算して応当日ベースで表示しています。
- 上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

## 当ファンドの歩み　ー コロナショック（2020年2月20日）から設定来最高値（2021年11月17日）ー

**投資行動**

### 2020年2月後半～2020年10月

パンデミック発生直後、危機を乗り越えられる確信度が低い銘柄の組み入れを削減してリスク回避。その後、ワクチン開発に伴うコロナ後の世界を想定し、パニックにより売られ過ぎた長期成長銘柄、および経済再開により恩恵を受ける成長銘柄への投資を増加。一部の大型テクノロジー銘柄人気が過熱する中、バリュエーションにも留意。

**市場テーマ・トレンド**

コロナ感染と治療薬・ワクチン開発動向、各国中銀緩和政策、テクノロジー普及加速、巣ごもり需要　など

### 2020年11月～2021年11月前半

コロナ禍による行動変容やテクノロジーの急速な普及、各国中銀の景気刺激策などによって幅広い企業が恩恵を受けた。変異株が断続的に出現するも、基本的にワクチン普及に伴う経済活動再開が意識される環境下、景気回復の恩恵を受ける企業と「コロナ後の世界」でも長期成長が可能な企業のバランスを取りながらポートフォリオ構築。

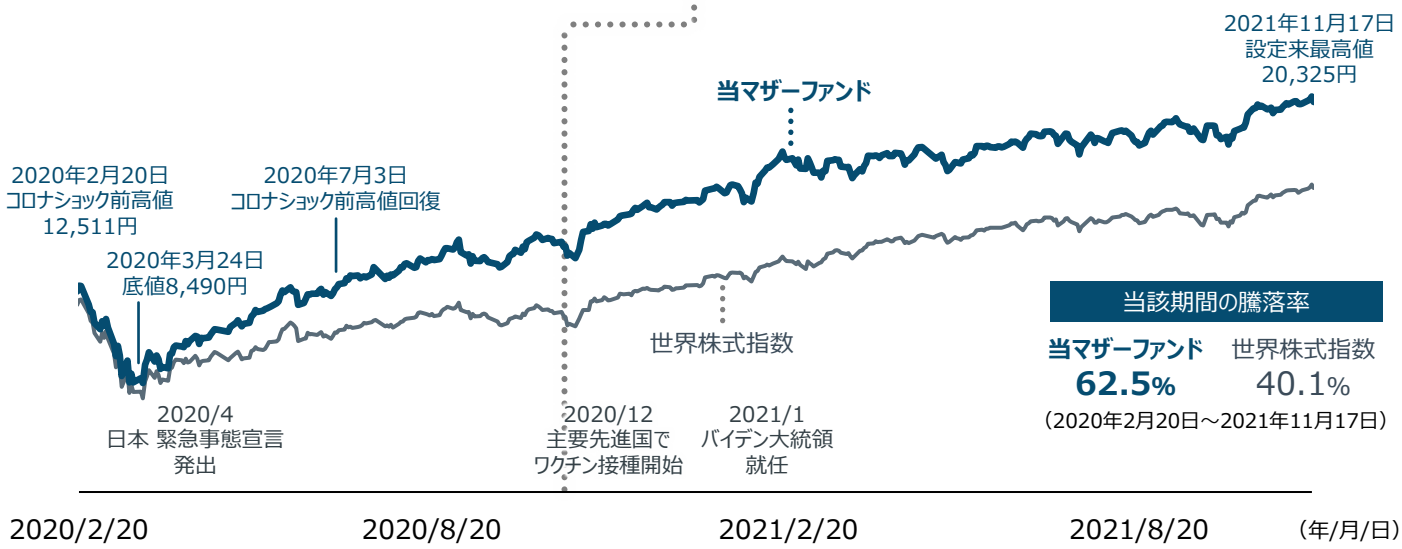
**市場テーマ・トレンド**

変異株出現、各国の景気刺激策、グロース株・バリュー株の優位局面入れ替わり　など

**組入上位5銘柄**

| 2020年2月末 | 2020年10月末 | 2020年11月末 | 2021年10月末 |
|---|---|---|---|
| 1. サムスン電子 | 1. アマゾン・ドット・コム | 1. フェイスブック | 1. アマゾン・ドット・コム |
| 2. テンセント・ホールディングス | 2. フェイスブック | 2. マスターカード | 2. ユナイテッドヘルス・グループ |
| 3. アマゾン・ドット・コム | 3. ロンドン証券取引所グループ | 3. チャールズ・シュワブ | 3. チャールズ・シュワブ |
| 4. ロンドン証券取引所グループ | 4. マスターカード | 4. ロンドン証券取引所グループ | 4. ロンドン証券取引所グループ |
| 5. アルファベット | 5. チャールズ・シュワブ | 5. ユナイテッドヘルス・グループ | 5. アルファベット |

※銘柄名は組入当時のものを表示しています。




**当該期間の騰落率**

| 当マザーファンド | 世界株式指数 |
|---|---|
| 62.5% | 40.1% |

（2020年2月20日～2021年11月17日）

## 協働の文化 「デイビッド・アイズワートとアナリストの協働」

ティー・ロウ・プライス・グループには、
**「協働」**の文化が根付いています。
コロナ禍において実際に協働が発揮されたエピソードとして、当運用戦略の運用責任者デイビッド・アイズワートが社内のアナリストに向けて送ったメッセージをご紹介します。

これにより、当ファンドはコロナショック後の見通しが不透明な環境下でも相対的に良好な運用成果を上げることが出来ました。

**2020年2月　社内コミュニケーションにて**

6ヵ月以内に新型コロナウイルスが落ち着くと仮定した場合、
今どの銘柄を買わなければ後悔するか、各アナリスト3銘柄ずつ、
1行の理由と一緒に送って欲しい。

もちろん、感染拡大が6ヵ月以上続くかもしれない。
その際に、アナリスト達に責任を負わせるようなことはしない。
ダウンサイドリスクは気にせず、長期の勝ち組で将来巨大な付加価値を創出できると考える銘柄のアイデアを出し合おう。

**Set your fear of loss aside for a moment. Focus on your fear of future regret!**
**しばらくは、損失を恐れずに、将来、後悔しないことに注力しよう！**

期間：2020年2月20日～2021年11月17日、2019年5月28日＝10,000として指数化　出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライス作成
- 当マザーファンドは信託報酬（年率1.683%（税込））控除後の値を使用しています。
- 世界株式指数はMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を円換算して応当日ベースで表示しています。
- 上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

## 当ファンドの歩み　ー 設定来最高値（2021年11月17日）から直近（2022年5月31日）ー

**投資行動**

### 2021年11月後半～2022年2月前半

ロックダウンによる供給網混乱と繰越需要解放や設備投資増加が重なり、インフレ懸念が強まる。FRBがタカ派転換し、先行きの不透明感が強くなる中、特定のスタイルに偏ることなく、持続的な成長が見込まれる企業や個別の成長要因を有する企業をボトムアップで発掘するアプローチを継続。

**市場テーマ・トレンド**

FRB金融政策転換、インフレ、サプライチェーン問題　など

### 2022年2月後半～2022年5月

ロシア・ウクライナ危機により再度不透明な環境に。供給制約や資源価格高騰によりインフレ率は高止まりし、FRBが経済への悪影響を抑えながらのインフレ抑制を達成できるかに市場の注目が集まる中、規律あるファンダメンタルズ分析に基づき、個別の成長要因を有する銘柄やグローバルでの投資機会を探り、綿密なファンダメンタルズ調査による慎重な逆張りを実施。

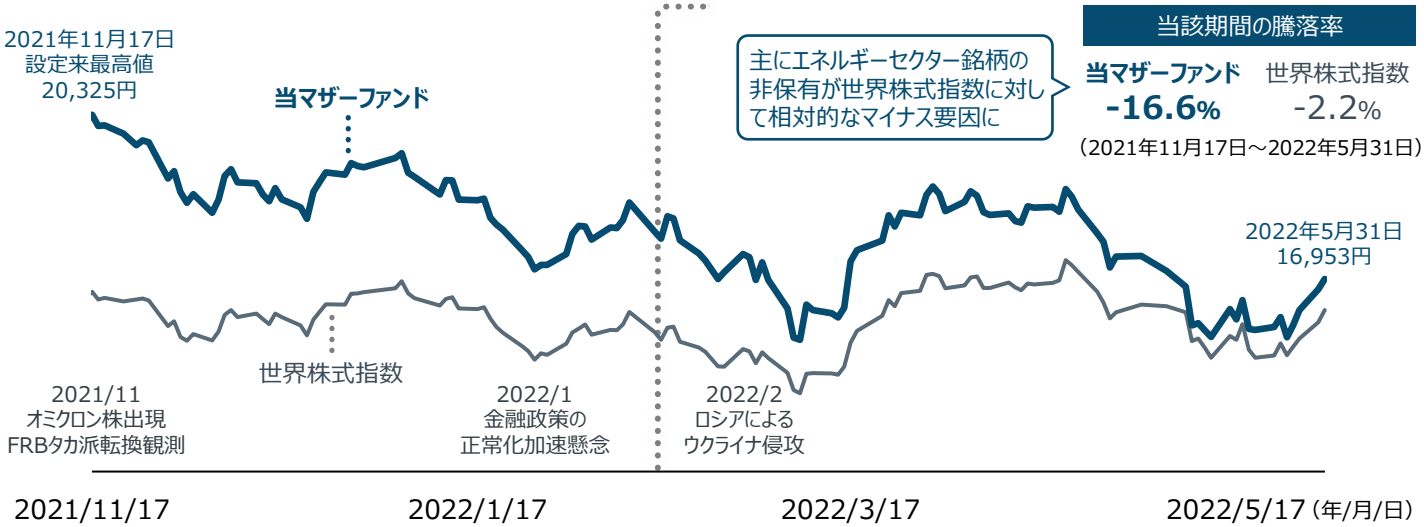
**市場テーマ・トレンド**

ロシア・ウクライナ危機、コロナ感染再拡大、中国ゼロコロナ政策、インフレ、エネルギー価格高騰、サプライチェーン問題　など

**組入上位5銘柄**

| 2021年11月末 | 2022年1月末 | 2022年2月末 | 2022年5月末 |
|---|---|---|---|
| 1. アマゾン・ドット・コム | 1. チャールズ・シュワブ | 1. アマゾン・ドット・コム | 1. エアバス |
| 2. チャールズ・シュワブ | 2. ゼネラル・エレクトリック | 2. チャールズ・シュワブ | 2. チャールズ・シュワブ |
| 3. ユナイテッドヘルス・グループ | 3. ユナイテッドヘルス・グループ | 3. ゼネラル・エレクトリック | 3. アマゾン・ドット・コム |
| 4. アルファベット | 4. アマゾン・ドット・コム | 4. ユナイテッドヘルス・グループ | 4. マスターカード |
| 5. ロンドン証券取引所グループ | 5. エアバス | 5. エアバス | 5. ロンドン証券取引所グループ |

※銘柄名は組入当時のものを表示しています。




主にエネルギーセクター銘柄の非保有が世界株式指数に対して相対的なマイナス要因に

**当該期間の騰落率**

| 当マザーファンド | 世界株式指数 |
|---|---|
| -16.6% | -2.2% |

（2021年11月17日～2022年5月31日）

## 組入銘柄紹介「足元の市場環境で注目している企業」

変動性の高い市場環境が続く中でも、当ファンドは企業が成長する個別要因を見極め、銘柄選別を行っています。

2022年5月末時点で、当ファンドが注目し、上位に組み入れている銘柄の一部をご紹介します。

**エアバス**
**テーマ：**航空機需要回復
**国：**フランス

経済活動が再開し、航空機での移動需要が回復しつつある中、市場で競争優位なポジションに位置する同社は中長期的な成長が見込まれる。

**ロンドン証券取引所グループ**
**テーマ：**市場変動性の高まり
**国：**英国

世界最大級の証券取引所の一つ。データ事業会社Refinitivの買収効果により今後数年間の収益成長寄与が期待される。また変動が大きい市場環境において取引量増加の恩恵を受けると見込む。

**ユナイテッドヘルス・グループ**
**テーマ：**ディフェンシブ
**国：**米国

総合医療サービスを提供するヘルスケア企業。米国の人口増加と高齢化により、医療保険加入者増加の恩恵が予想される。ポートフォリオにおいてディフェンシブ性も期待して高位組み入れ。

期間：2021年11月17日～2022年5月31日、2019年5月28日＝10,000として指数化　出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライス作成

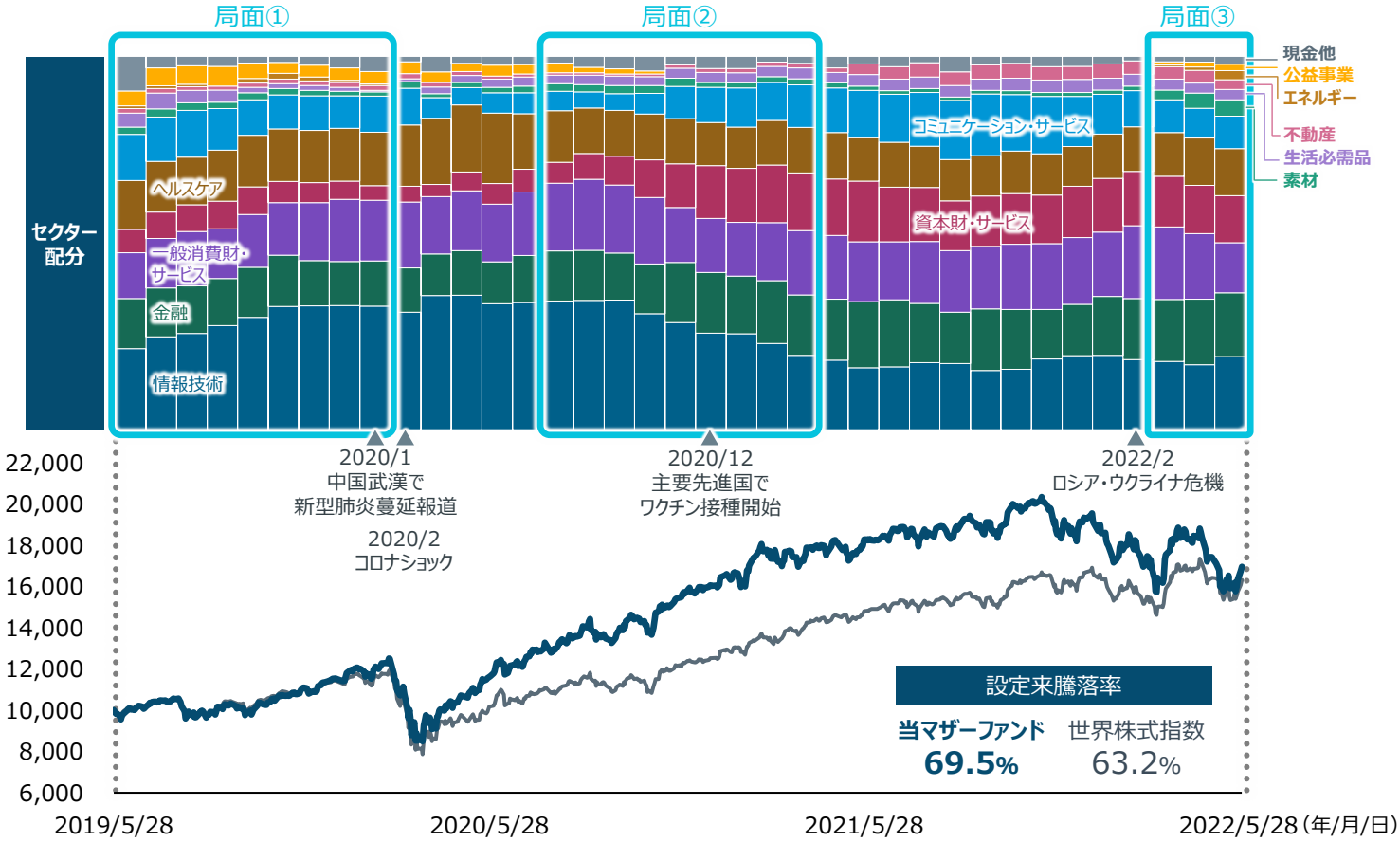
- 当マザーファンドは信託報酬（年率1.683%（税込））控除後の値を使用しています。
- 世界株式指数はMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を円換算して応当日ベースで表示しています。
- 上記で記載した個別銘柄につき、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。
- 表示されている商標は、それぞれの所有者に帰属します。ティー・ロウ・プライスがこれらの商標の所有者を支持、後援、承認、提携するものではありません。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

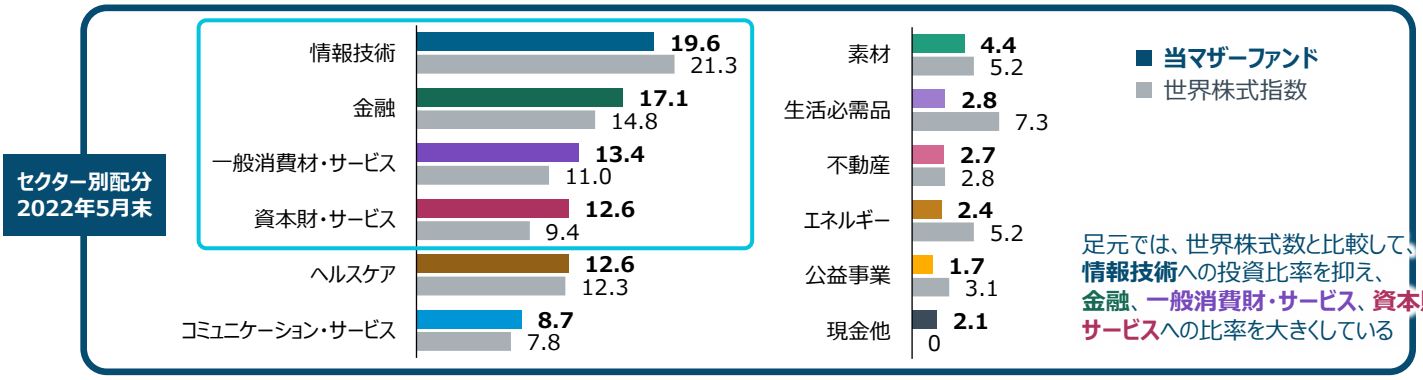
# 当ファンドの歩み　ー 設定日（2019年5月28日）から直近（2022年5月31日）ー

## 設定来でのパフォーマンスとセクター配分の推移

当ファンドの設定来パフォーマンスを見ると、世界株式指数と比較して、主にコロナショック後の市場環境で超過収益を上げてきたことが分かります。これは、不透明な環境下でも変化を見極めて機動的な運用に注力してきたことが寄与した結果だと考えています。

セクター配分の推移を確認すると、クラウドの普及などを見越して、コロナショック前から情報技術セクターの配分を高めてきました（局面①）。また、依然市場に動揺が残るなか、将来のワクチン開発と経済活動再開を想定して、情報技術セクターの配分を削減し、金利上昇で恩恵を受ける金融関連や景気回復局面で恩恵を受ける資本財・サービスや一般消費財・サービスの配分を増加（局面②）、ロシア・ウクライナ危機でエネルギー価格が高騰したタイミングでは、不安定な市場に備えるため、長期で非保有だったエネルギー、公益事業セクターを組み入れました（局面③）。




期間：2019年5月28日～2022年5月31日、2019年5月28日＝10,000として指数化　出所：MSCIのデータをもとにティー・ロウ・プライス作成

- 当マザーファンドは信託報酬（年率1.683%（税込））控除後の値を使用しています。
- 世界株式指数はMSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（税引前配当再投資、米ドルベース）を円換算して応当日ベースで表示しています。
- 上記はティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンドの情報です。構成比はすべて対純資産総額の比率です。四捨五入のため、合計が100%にならない場合があります。現金他には、キャッシュのほか未収・未払金等を含んでおり、マイナスとなる場合もあります。
- セクター配分は世界産業分類基準（GICS）を使用しています。GICSは年次更新され、報告は適宜更新内容を反映します。GICSの情報は「留意事項」のページをご確認ください。
- 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

# 当ファンドのこれから　ー 今後の見通しと運用方針 ー

## ロシア・ウクライナ危機でより複雑な市場環境に

運用チームは2022年の見通しとして、コロナ禍の景気への影響を緩和するため各国中央銀行が行った超低金利政策と流動性供給や、生活様式の変容、サプライチェーンの混乱といった「極端」な状況が、正常化していくと予想していました。しかし、正常化が完了する前の2月にロシアによるウクライナ侵攻が発生したことで状況が一層複雑になりました。前例のない環境で先行きの不透明感が強い中、世界の投資家はFRBの金融政策や経済指標の発表などに翻弄され、株価は上下に激しく変動する状況となっています。

## 歴史的観点から、インフレは時間と共に沈静化し、新たな投資機会を生み出す

インフレは一般的に需要と供給のバランスが崩れることで発生します。経済活動の再開が進む中、コロナ禍下で蓄えられた貯蓄をもとにリベンジ消費が拡大したことで需要が急増しました。一方、供給サイドは従来のコロナ禍によるサプライチェーン問題に加えて、中国のゼロコロナ政策によるロックダウンやロシアへの経済制裁に伴う供給網分断により、回復が遅れました。さらにロシア・ウクライナ危機による資源価格の高騰などでコストが増加しました。これらが要因となり、現在のインフレ率が高止まりする環境が生み出されています。

しかし、過去の物価上昇局面では、需要鈍化、代替製品へのシフト、設備投資の加速による増産、新たな供給源の出現、消費の変化などを通じて時間の経過と共に沈静化してきました。運用チームは、こうした変化が今回のインフレ局面においても発生し、新たな投資機会を提供するとの考えのもと、目先の市場変動を過度に意識し過ぎることなく、1年先、2年先といった先の目線で経済環境を想像し、現在からどのような変化が生まれるのか、想像力を働かせながら、企業の発掘・分析に努めています。

**今回の主なインフレ発生要因**

| 需要サイド | 供給サイド |
|---|---|
| 世界的な経済活動再開 | サプライチェーンの混乱 |
| リベンジ消費 | 資源価格高騰 |
| | 人件費高騰 |
| | 半導体不足 |

▼

**インフレ圧力解消に寄与する主な要因**

| 需要サイド | 供給サイド |
|---|---|
| 価格上昇に伴う需要鈍化 | 代替製品へのシフト |
| 消費の変化 | 設備投資加速による供給増 |
| | 新たな供給源の出現 |

＋

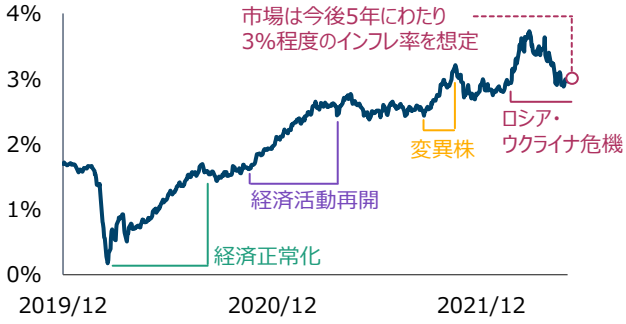
各国中央銀行による金融引き締め

**新たな投資機会の創出に**

## インフレ高止まりも深刻な景気後退の可能性は低い

市場では今後もインフレ圧力の高止まりが続くと予想しており、インフレ抑制を目的とした金融引き締め政策が悪影響を与え、景気後退に陥るかが懸念されています。今後景気が減速することは想定されるものの、前述の通り、貯蓄バランスや消費も良好なことから、すぐに深刻な景気後退局面に陥る可能性は低いと考えています。

**市場が推測する米国の期待インフレ率（5年）**




期間：2019年12月31日～2022年5月31日　出所：ブルームバーグ・ファイナンス L.P.のデータを基にティー・ロウ・プライス作成　米国5年国債と5年インフレ連動債の利回り格差（ブレークイーブン・インフレ率）を使用。

## 将来を見据えたポートフォリオ構築を目指す

2022年および2023年以降の株式市場は、様々な変化が交錯し、コロナショック後の2020年や2021年よりも複雑なものになると見ています。こうした市場環境では企業調査力が重要となり、銘柄選別眼や投資判断力が求められます。つまり、アクティブの「運用力」がパフォーマンスの巧拙を決める環境が訪れているのです。

運用チームはこうした環境でお客様に長期で良好な運用実績を提供するため、常に変化する世界を想定し、想像力を働かせながら機動的に投資することを目指しています。また、ティー・ロウ・プライスのグローバルの運用プラットフォームを活用した綿密なファンダメンタルズ調査による慎重な投資判断を行い、特定のスタイルに偏ることなく、持続的な成長が見込まれ、将来の変化の恩恵を受ける企業を特定し、選別投資する方針です。

・ 上記は過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

## ファンドの特色

**1**

ティー・ロウ・プライス 世界厳選成長株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界各国の株式（エマージング・マーケット*も含みます。）の中で、成長性が高いと判断される企業の株式を中心に投資を行います。

＊ エマージング・マーケットとは、経済の発展段階にある国や地域の市場を指し、新興国市場とも呼ばれます。

**2**

銘柄選択に関しては、個別企業分析に基づく「ボトム・アップ・アプローチ*1」を重視した運用を行います。個別企業分析にあたっては、ティー・ロウ・プライス*2のアナリストによる独自の企業調査情報を活用します。

＊1 ボトム・アップ・アプローチとは、アナリストの個別企業に対する調査や分析等に基づきその企業の投資価値を判断し、個別銘柄を選択する運用手法です。

＊2 委託会社およびその関連会社をいいます。

**3**

Aコース／Cコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジ（主要国通貨による代替ヘッジを含みます。）を行い、為替変動リスクの低減を図ります。
Bコース／Dコースは、実質外貨建資産について、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

**4**

決算頻度と為替ヘッジの有無の異なる4つのコースからお選びいただけます。

※市場動向、資金動向、信託財産の規模等により、上記1～3のような運用が出来ない場合があります。
※上記は当ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色を含みます。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。
ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。当ファンドが有する主なリスク（ファンドの主たる投資対象であるマザーファンドが有するリスクを含みます。）は以下の通りです。

#### 株価変動リスク

当ファンドは、実質的に世界の株式を主要な投資対象としますので、その基準価額は、株式（米国預託証券(ADR)、欧州預託証券(EDR)、グローバル預託証券(GDR)等を含みます。）の値動きにより、大きく変動することがあります。株価は、発行企業の業績、市場での需給関係、政治・経済・社会情勢等の影響を受けて、ときには大きく変動します。発行企業が経営不安や倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。また、当ファンドは中小型株に投資することがありますが、時価総額が小さい企業の株式は、大規模企業の株式よりも価格の変動が大きくなる場合があります。

#### 為替リスク

AコースおよびCコースは、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、主要国通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、通貨間の値動きが異なるため、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、為替ヘッジを行う際は、通貨間の金利差相当分のヘッジコストがかかる場合があり、ファンドの基準価額に影響します。
ＢコースおよびＤコースは、原則として為替ヘッジを行わないため、為替変動の影響を直接受けます。したがって、為替相場が円高方向に進んだ場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、為替相場は大きく変動する場合があります。

#### エマージング・マーケット・リスク

当ファンドはエマージング・マーケット（新興国市場）の株式も投資対象としています。エマージング・マーケットは先進国と比較して市場が成熟していないため、流動性が低く、価格の変動性も大きいことから、価格変動リスクが高くなる傾向にあります。また新興国は先進国と比較すると政情が不安定な国や地域が多く、投資対象国・地域における政治体制の変更、法令の変更、経済情勢の変化等の影響が市場におよぶリスクが高くなります。これらのリスクにより、基準価額が下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。
※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## お申込みメモ

| | | |
|---|---|---|
| 購入時 | 購入単位 | 一般コース：1万口以上1口単位または1万円以上1円単位<br>自動けいぞく投資コース ： 1万口以上1口単位または1万円以上1円単位(分配金を再投資する場合1口単位)<br>※購入後のコース変更はできません。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| | 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 |
| | 購入代金 | 販売会社の定める期日までにお支払いください。 |
| 換金時 | 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。 |
| | 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお申込みの販売会社でお支払いします。 |
| 申込について | 申込締切時間 | 午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込み分とします。 |
| | 換金制限 | ファンドの資金管理を円滑に行うため、1日1件10億円を超える換金はできません。<br>また、委託会社の判断により、別途制限を設ける場合があります。 |
| | 購入・換金申込不可日 | ニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行の休業日には、お申込みの受付は行いません。<br>※スイッチングのお申込みの場合も同様です。 |
| | 購入・換金申込受付の中止および取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。<br>※スイッチングのお申込みの場合も同様です。<br>なお、主要投資対象市場の規模・流動性等を勘案し、購入のお申込みの受付を制限することがあります。 |

| | | |
|---|---|---|
| その他 | 信託期間 | 原則として無期限(設定日:2019年5月28日) |
| | 繰上償還 | 次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。<br>・各ファンドについて受益権口数が50億口を下回ることとなった場合<br>・信託契約を解消することが受益者のために有利であると認めるとき<br>・正当な理由があるとき |
| | 決算日 | 資産成長型:毎年3月、9月の各15日(休業日の場合は翌営業日)<br>分配重視型:毎年3月、6月、9月、12月の各15日(休業日の場合は翌営業日) |
| | 収益分配 | 資産成長型:年2回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。<br>ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。<br>自動けいぞく投資コースの場合、収益分配金は、税引き後、無手数料で再投資されます。<br>分配重視型:年4回の決算時に、分配方針に基づいて分配を行います。<br>ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。<br>自動けいぞく投資コースの場合、収益分配金は、税引き後、無手数料で再投資されます。 |
| | 信託金の限度額 | 各ファンドについて1兆円を上限とします。 |
| | 公告 | 公告を行う場合は日本経済新聞に掲載します。 |
| | 運用報告書 | 年2回(3月および9月)の決算時および償還時に、期中の運用経過などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に対して交付します。 |
| | スイッチング | スイッチングは、AコースとBコースの間、CコースとDコースの間で行うことが可能です。スイッチングの際には、通常の換金時と同様に税金がかかります。 |
| | 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取扱われます。<br>税法上、公募株式投資信託は少額投資非課税制度(NISA)および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。<br>配当控除の適用はありません。 |

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

| | |
|---|---|
| 購入時手数料 | 購入金額(購入申込日の翌営業日の基準価額×購入口数)に以下の手数料率を乗じた額とします。 |

| 購入代金 | 購入時手数料率 |
|---|---|
| 1億円未満 | 3.30%(税抜3.0%) |
| 1億円以上5億円未満 | 1.65%(税抜1.5%) |
| 5億円以上 | 0.55%(税抜0.5%) |

※購入代金=購入口数×基準価額+購入時手数料(税込)
※スイッチングによる購入は無手数料とします。

| | |
|---|---|
| 信託財産留保額 | ありません。 |

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

| | | |
|---|---|---|
| 運用管理費用(信託報酬) | | ファンドの純資産総額に対し、年1.683%(税抜1.53%)の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 |
| その他の費用・手数料 | 信託事務の諸費用等 | 法定書類等の作成等に要する費用(有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷、交付および提出にかかる費用)、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.11%(税抜0.1%)を上限とする額が毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 |
| | 売買委託手数料等 | 組入有価証券の売買委託手数料、外貨建資産の保管等に要する費用等が、信託財産から支払われます。<br>※運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することはできません。 |

※上記の手数料・費用等の合計額等については、投資者のみなさまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

詳しくは、契約締結前交付書面および投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分にお読みください。

お申込み・投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は

野村證券
商　　号：野村證券株式会社　金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第142号
加入協会：日本証券業協会/一般社団法人日本投資顧問業協会/
一般社団法人金融先物取引業協会/一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は

T.RowePrice
商　　号：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第3043号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会/一般社団法人投資信託協会

## 分配金の留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。
- ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行う場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。
- 計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行った場合、当期決算期末の基準価額は前期決算期末の基準価額と比べて下落することになります。
- 投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者ごとの取得元本）の状況によっては、分配金の一部または全部が、実質的に元本の一部払い戻しに相当する場合があります。

## 追加ディスクロージャー

- MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス：出所MSCI。MSCIおよびその関連会社、並びに第三者の情報源および提供者（まとめて「MSCI」）は、本稿に記載されるMSCIのデータに関して、明示的または暗黙的に関わらず、いかなる保証や表明は行わず、一切の責任を負いません。MSCIのデータは、その他の指数や証券、金融商品の基準としての更なる再配布や使用が禁止されています。本資料は、MSCIによって承認、審査、発行されたものではありません。過去のMSCIのデータおよび分析は、将来のパフォーマンスの分析、見通しまたは予測を示唆または保証するものではありません。いずれのMSCIのデータも、投資判断のための投資アドバイスや推奨を目的とするものではなく、投資アドバイスや推奨として依拠してはなりません。

## 世界産業分類基準（GICS）について

世界産業分類基準（「GICS」）は、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（「MSCI」）およびマグロウヒル・カンパニーズ傘下のスタンダード＆プアーズ（「S&P」）が開発した独占的財産およびサービスマークであり、ティー・ロウ・プライスにライセンス供与されています。MSCI、S&PまたはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれも、当該基準や分類（またはその利用から得られた結果）について明示的にも暗示的にもいかなる保証や表明もしません。また、すべての関係当事者は、当該基準や分類のいずれについても、その独創性、正確性、網羅性、商品性または特定の目的適合性について、いかなる保証からも明示的に免責されます。前述の内容を制限することなく、MSCI、S&P、その関連会社またはGICSの作成、編集もしくはGICS分類に関与する第三者はいずれの場合も、直接的、間接的、特別、懲罰的、結果的またはその他のいかなる損害（逸失利益を含む）について、その発生可能性が通知されていたとしても、いかなる責任も負いません。

## 当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社が作成したお客様向け資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。
- 当資料における見解等は資料作成時点のものであり、将来事前の通知なしに変更されることがあります。また、本資料で示したデータ等は、情報提供を目的として掲載したものであり、将来の投資成果を示唆、または保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建て資産には為替変動リスクもあります）を投資対象としているため、お客様の資産が当初の投資元本を割り込み損失が生じることがあります。ご購入の際は投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時にお渡ししますので、必ずお受け取りのうえ、内容をよく読み、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、預金や保険契約ではありません。また、預金保険機構や保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。購入金額については、元本および利回りの保証はありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 「T.ROWE PRICE, INVEST WITH CONFIDENCE」および大角羊のデザインは、ティー・ ロウ・プライス・グループ、インクの商標または登録商標です。
- 当資料はティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社の書面による同意のない限り他に転載することはできません。